

地球環境にも現場環境にもやさしい
建築外壁プレカット工法で、業界に新風

平成20・21年度 採択事業



殿谷幸司さん

現場の騒音・粉塵問題を改善したい

建築現場で騒音や粉塵が発生するのは当たり前、近隣への迷惑はある程度やむを得ないこと…。半ば常識として通用してきたそんな認識が、近年次第に変化しつつあります。住宅の建築施工に従事する株式会社RINSANの代表殿谷幸司さんはその変化にいち早く気づき、対策の必要性を感じていました。「近隣住民から“その家が建つことで、なぜ自分たちが不快な思いをしなければならないのか”という声が聞こえるようになってきた。職人は工事完了と同時に現場から逃げられるけれど、お施主さんは一生そこに住まれます。私たちは家をつくるだけでなく、居住される人たちの生活を保証しなければならないところまできているのです」と殿谷さん。

通常、建築のサイディング（外壁材）加工は現場で施工されており、堅い建材をカットする際には耳をつんざく高周波騒音が発生し、粉塵が飛散します。しかし特に問題視されることもなく、むしろそれが現場の常識でもありました。ところが約5年前、社会がアスベスト問題に揺れていた頃、とある現場でのサイディングカット作業中にいきなり警官が現れます。「あそこでアスベストを切っている」という通報が入ったというのです。

「そのとき初めて問題意識を持ちました。あの白いセメントの粉は一般の方にはアスベストなんだ、これは何とか考えなあかんなど。そこでメーカーにいろいろ指導を仰いだのですが、打つ手がないとのことで行き詰まってしまいました」。



プレカット専用切断機

関西初のプレカット工法に挑戦

殿谷さんは解決の道を模索しはじめます。そして、全国でまだ3社（千葉・青森・愛媛）しか手掛けていなかった「プレカット工法」に着目します。プレカットとは、その言葉の意味通り“事前にカットする”こと。つまり建材は工場

環境対策

で事前にカットしておき、組み立てだけを現場で行う工法です。これなら現場での騒音・粉塵問題が解決できます。しかしこの工法があまり浸透していないのには理由がありました。高度な施工技術が必要とされるのです。

同社がメインとするのは木造建築です。木材は温度や湿度の変化で、反ったり割れたり歪んだりします。高温多湿の日本では、計測から施工までのあいだに建築物本体の木材が変形することも多く、いざ施工するときになって、事前にカットしておいた建材がうまく合わない可能性が高い。そのため職人には、木材の“遊び”を読み取る、長年の経験と勘が求められます。

「近頃では寸法が変化しにくい集成材等も出てきていますが、話を持ちかけた職人には、ことごとく無理だと言われた。そこで既にプレカット工法を取り入れていた愛媛・松山の業者を訪ねて、勉強させてもらいました。ある程度の手応えをつかめるまで3回通い、ようやく導入に踏み切れたのは平成20（2008）年の春。着想から2年かかりました」と、殿谷さんはその経緯を話します。



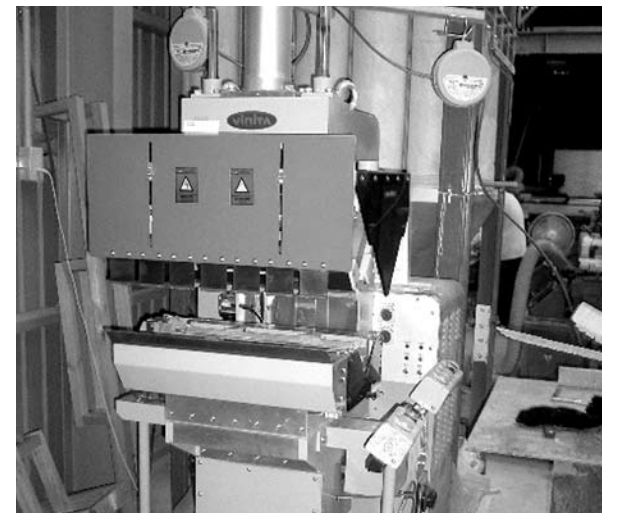
工場でプレカットされた建材

エコロジーの観点から社会に貢献

プレカット工法には騒音・粉塵問題の解決だけでなく、多数のメリットがあります。一つには、現場に十分なスペースがなくても施工が可能です。住宅が密集した現場などでは職人の車をとめる場所さえ確保できないこともありますが、プレカット工法なら切断済みの建材を運び込むだけなので加工スペースが不要。また雨や雪の日でも工場でカットでき、晴れの日には現場施工が行えるため天候に左右されることもなく、工期が短縮できます

さらには、廃棄物の大幅な減少があります。メーカーが実施するゼロ・エミッションの取り組みにより、工場一括収集できる廃材については無料で回収してもらえるのです。メーカーでは回収した廃棄物を自社工場で粉砕し、原材料にして、次の製品にリサイクル。日頃から廃材問題に心を痛めていた殿谷さんにとって、エコロジーの観点から社会に貢献できるこのシステムは、プレカット工法導入に

よる願ってもないメリットでした。



廃材から再利用商品を製造する接着機

2年連続でファンドに採択

同社はこのプレカット工法関連事業により、2年連続でファンドの採択を受けています。導入準備の年でもあった平成20（2008）年度は、専用の切断機器購入に活用。事業はすぐに軌道に乗り、一気に施工数がアップします。前年度に比べて棟数も社員数も、ほぼ2倍になったとのこと。2年目の平成21（2009）年度は、サイディング材の切れ端を再加工して新たな商品を製造するために、専用の接着機を購入。事業のさらなる進展に繋げました。

「10年ほど前に“付加価値”という言葉が流行しました。当社の施工技術の付加価値って何かと考えたときに、何もなかった。あるのは価格だけ。他社より安いから仕事が入る。それではダメ。何か付加価値を付けたくて、環境なりエコに対してどういう尽力ができるかを考えはじめました。そして、当社ならではの冠、代名詞がほしかった」と殿谷さん。

今では「プレカット工法のRINSAN」として確かな地位を築き、認知度もアップしました。「今後は家のパーツの一つである壁や屋根だけでなく、家そのものをクリエイティブしていきたい」と、次の目標に向けて新たな一歩を踏み出したところです。

事業概要

株式会社 RINSAN
<http://rinsans.co.jp/index.html>

代表：殿谷幸司

業種：建築資材販売・建築業

創業：昭和21（1946）年 設立：平成20（2008）年

住所：〒620-0042

福知山市宇天田28

TEL：0773-22-2541 FAX：0773-23-2226